

# 日々是Oracle APEX

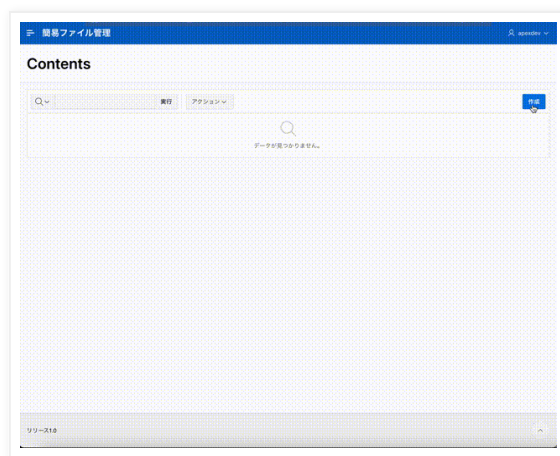
Oracle APEXを使った作業をしていて、気の付いたところを忘れないようにメモをとります。

2022年12月6日 火曜日

## 簡単なファイル管理アプリケーションの作成(1) - 初期アプリケーションの作成

手元にあるファイルのアップロード、一覧およびダウンロードを行うAPEXアプリケーションを作成します。過去に公開していた記事を、APEX 22.2で作業をやり直した上で書き直しました。

最初に、以下の動作をするアプリケーションを作成します。



## ファイルを保存する表の作成

クリックSQLの以下のモデルより、表SFM\_CONTENTSを作成します。

```
# prefix: sfm
# pk: guid
contents
  title vc80 /nn
  abstract vc800
  content file
```

**content**というのがファイルを保存する列の指定になります。クイックSQLでは**file**として、ファイルを保存する簡易タイプを指定できます。この指定から、**content\_filename**, **content\_mimetype**, **content\_charset**, **content\_lastupd**といった列が自動的に追加されます。これらはOracle APEXのページ・アイテムのタイプとして**ファイル参照...**を選択した際に、ページ・アイテムのプロパティに指定する値になります。

**PK**として**GUID**を生成するように定義しているため、行の挿入時に主キー列IDとしてGUID (SYS\_GUID()の値) が自動的に設定されます。IDを連番にすると、IDを推測してダウンロードを試

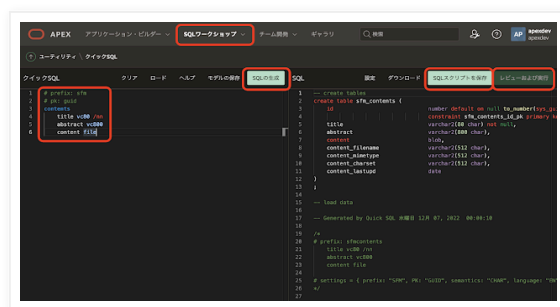
みることが容易になるため、GUIDを選んでいきます。

表を作成します。

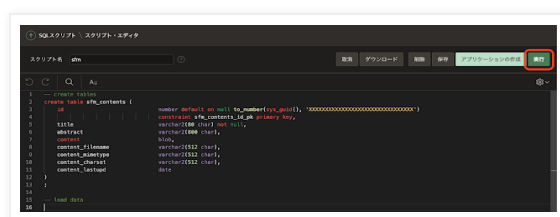
SQLワークショップよりユーティリティのクイックSQLを開きます。

左ペインにクイックSQLのモデルを記述し、SQLの生成をクリックします。続けて、SQLスクリプトの保存をクリックし、ファイルとして一旦保存します。

その後、レビューおよび実行をクリックします。



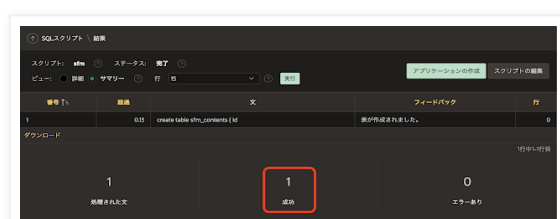
スクリプト・エディタが開きます。自動生成されたDDLで変更が必要な部分はないため、そのまま実行します。この時点では、アプリケーションの作成は行えません。



確認画面が開きます。即時実行をクリックします。



DDLの実行が成功している（つまり正常に表SFM\_CONTENTSが作成されている）ことを確認し、アプリケーションの作成を実行します。



## アプリケーションの作成

クイックSQLによる表の作成から続けて、アプリケーションの作成を行います。

アプリケーションの作成をクリックします。



クイックSQLにより作成された表SFM\_CONTENTSをソースとするレポートとフォームのページを、アプリケーション作成ウィザードに設定すると案内されます。

そのまま、アプリケーションの作成をクリックします。

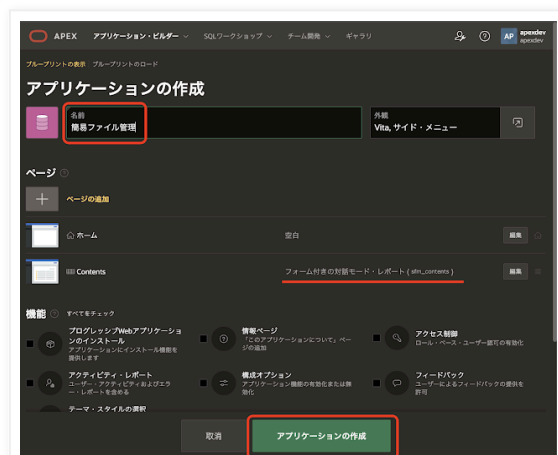


アプリケーション作成ウィザードが開きます。

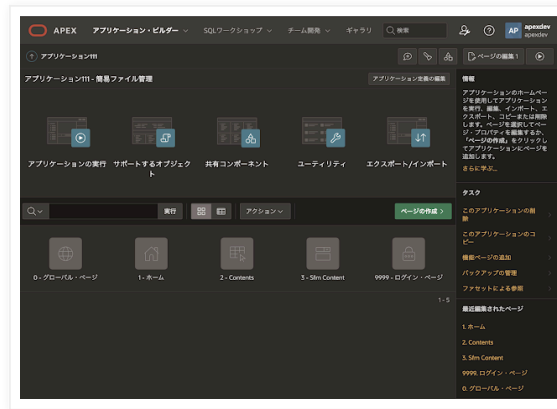
表SFM\_CONTENTSをソースとしたレポートとフォームのページが含まれています。

アプリケーションの名前として簡易ファイル管理を設定します。それ以外はデフォルトから変更しません。

アプリケーションの作成を実行します。



アプリケーションが出来上がります。



## 作成されたアプリケーションの調整

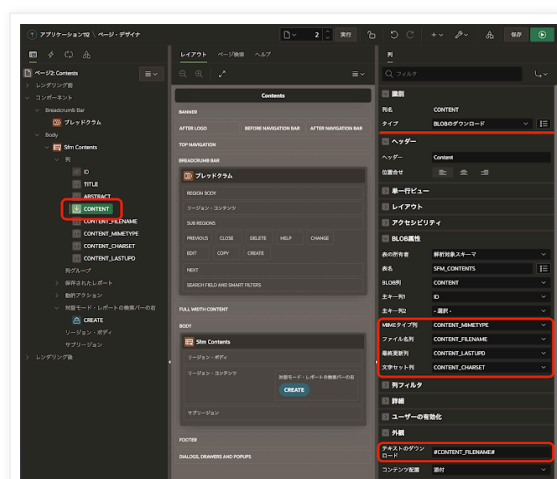
表SFM\_CONTENTSの列CONTENTの型はBLOBです。レポートのBLOB列にて設定が必須でないBLOB属性は、手作業で設定する必要があります。

ページ・デザイナーにてページ番号 2 のContentsのページを開き、レポートSfm Contentsの列CONTENTを選択します。

列CONTENTのBLOB属性のMIMEタイプ列としてCONTENT\_MIMETYPE、ファイル名列としてCONTENT\_FILENAME、最終更新列としてCONTENT\_LASTUPD、文字セット列としてCONTENT\_CHARSETを指定します。

これらの列はクイックSQLにて、列contentの型としてfileを指定したことにより、自動的に作成されています。

外観のテキストのダウンロードとして#CONTENT\_FILENAME#を指定します。



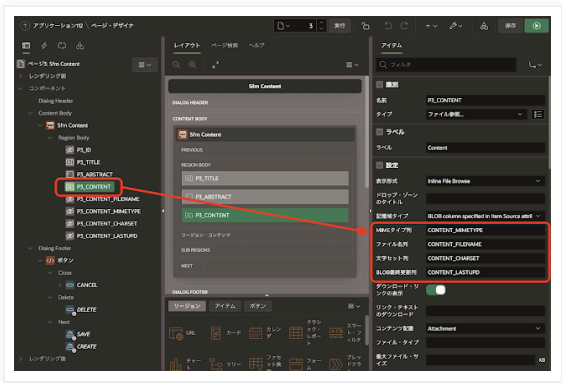
APEXの22.1以降のバージョンでは、BLOB列はdbms\_lob.getlengthを呼び出した結果に置き換わっています。そのため、ウィザードが生成したSELECT文を手作業で修正する必要がなくなりました。

続いて、フォームのページに対して同様の修正を行います。

ページ・デザイナーにてページ番号 3 のSfm Contentを開きます。

フォーム・リージョンSfm Contentに含まれるページ・アイテムP3\_CONTENTを選択します。

設定のMIMEタイプ列としてCONTENT\_MIMETYPE、ファイル名列としてCONTENT\_FILENAME、文字セット列としてCONTENT\_CHARSET、BLOB最終更新列としてCONTENT\_LASTUPDを指定します。



以上でアプリケーションは完成です。

続く

Yuji N. 時刻: 22:00

共有

<

ホーム

>

ウェブバージョンを表示

自己紹介

Yuji N.

日本オラクル株式会社に勤務していて、Oracle APEXのGroundbreaker Advocateを拝命しました。こちらの記事につきましては、免責事項の参照をお願いいたします。

詳細プロフィールを表示

Powered by Blogger.